



日本共産党東京都議団ニュース

——都民が主人公の東京へ——

2022
4月17日
No.333

発行

日本共産党東京都議会議員団
控室 電話 (5320) 7270 連絡 新宿区住吉町十一一二五十五
FAX (5388) 1790

先

新宿区住吉町十一一二五十五

電話 (3357) 3818

FAX (3353) 4912

大山とも子事務所

◆都政に関するご意見・ご要望をお寄せください！

大山とも子都議は、3月22日の都議会予算特別委員会でしめくくり総括質疑に立ちました。

都立・公社病院の独法化を進める 都の理屈は全て破綻

大山都議は、都立・公社病院を独立行政法人化することについて、「都立・公社病院を守れの運動はますます広がり、署名は累計35万人を超えました。都民の理解も合意も得られていないことは明白です」と切り出し、都立・公社病院の独法化を進める都の理屈はますます破綻していることを明らかにしました。

「コロナ対策を強化するため」の破綻



第一回定例会の本会議代表質問で、知事は突然、「コロナ対応を踏まえて、独法化の準備をする」と述べました。「コロナ対応のためという独法化の目的はいつ、どこで決めたのか」と質問しましたが知事は全く答えることができません。それもそのはず、コロナ専用病床を確保した全国2300の医療機関のなかで、コロナ病床確保数の1位／11位は全て都立・公社病院です。その上、小児総合医療センター、松沢病院もそれぞれの専門病院でコロナ病床確保数は一番といふことも明らかになりました。独法化の理由がコロナ対応のためなどという話は成り立ちません。

東京都が独法化の成功例と 言つてきた大阪府では

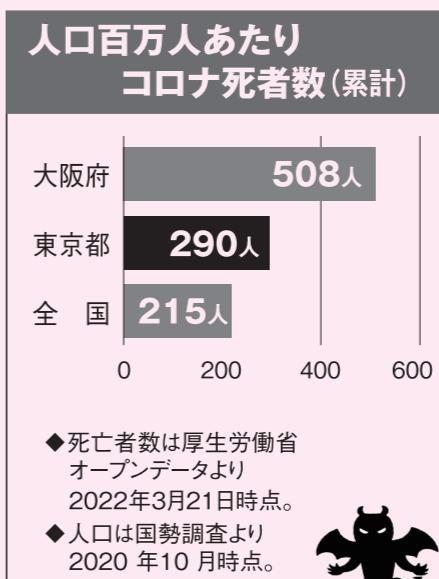
コロナ感染での死者数が突出

松沢病院前院長 齋藤正彦名誉院長の話

「みんながコロナで大変な時にこれで独法化をやるのか。昨年の第4波の時、コロナでの死亡者数を見ると、大阪は東京の3倍だった。今も1・5倍くらいある。独法化がやりやすい、よくなるというなら、なぜ大阪ではこんな事態になっているのか。国立独法の精神科病院もあるが、松沢病院の方がはるかに多くのコロナ患者を受け入れてきた。独法化すればよくなるなど、どうして言えるのか全くわからない」。

再編統合を否定しない 驚くべき東京都の答弁

東京都独立行政法人評価委員会都立病院分科会では、委員の一人が「病床機能の見



直とか、急性期病床などの適正化とか、再編統合は避けられないと思う」と発言しています。知事にこの発言の受け止めを質問しましたが、知事は答えることもできませんでした。代わりに答弁した西山病院経営本部長は、「都立病院では、これまでも小児総合医療センターなど再編整備を進め、医療機能の集約化による医療の質の向上とネットワーク機能の充実強化によりまして、都民に対する総体としての医療サービスの向上を図つてまいりました。」と述べました。

再編統合を全く否定しない、統廃合自体を良いことだという驚きの答弁をしました。

八王子、清瀬、梅ヶ丘の3小児病院を廃止した



石原都政の時に、都立病院は、都民の強い反対をおしきつて大規模な再編統合が強行され、16カ所から8カ所に半分に減らされました。

地域になくてはならない八王子、清瀬、梅ヶ丘の3つの小児病院が廃止されて、小児総合医療センター1カ所に統合されました。それから12年、赤ちゃんの命を守るNICU（新生児集中治療室）が八王子や清瀬の地域になくなり NICUを求める声は今でも切実で、今定例会の本会議が質問したばかりでした。

都立直営だからこそ
神経病院などは
文字通り不採算医療
都立直営だからこそ
その医療



大山都議は独法化問題の質疑の最後で、神経病院について取り上げ、都立だからこそできる医療であることを示しました。

神経難病の患者さんは、入院したときに、普通のナースコールは押せません。都立神経病院では、入院したらすぐにリハビリ士

がベッドサイドにかけつけ、患者さんが動かせるわずかな指先の動きや、まばたき、眼球の動きなどを使つてナースコールできています。

患者のご家族は、「ナースコールを押すといる意欲が出るんです」と話してくれました。これは、文字通りの不採算医療です。全国の専門病院の中でも都立神経病院ならではの取り組みです。都立直営だからこそ、このように、採算性や効率性よりも、一人ひとりの人権と尊厳を大事にする医療に安心して取り組むことができるのです。

都立・公社病院の独法化は 都政に禍根を残す 実施させないために全力

都立・公社病院は、都民の命を守る皆の役割を果たしています。私たちは、都政に禍根を残すことになる独法化を7月に実施させないため、引き続き皆さんと力を合わせて頑張ります。

平和祈念館を今こそ



ロシアのウクライナへの軍事侵攻、病院や原発などへの無差別な軍事攻撃によって子どもを含む多くの民間人が亡くなりました。子どもや女性たちが避難していた劇場を爆撃するなど、決して許せるものではありません。戦時中、空襲を体験した方々は今、どんな思いで見ておられるでしょう。主権の尊重と領土の保全、武力行使の禁止を義務付けた国連憲章に反する侵略であり、断じて許せるものではありません。「ロシアは侵略やめよ」「国連憲章を守れ」の一点で全世界が声をあげ、力を合わせることが重要です。

戦争の記憶を風化させることなく 次世代に語り継ぐことが ますます重要な局面に

日本もかつて、戦争でアジアの国々に大きな被害を与え、日本国民も多大な犠牲を払いました。1944年11月から約10ヵ月間、都内全域でアメリカ軍の激しい空爆があり、東京は終戦まで戦火の地となりました。

大山都議は、「私は、同居していた明治生まれの祖母から、戦争中のことを何度も聞いて育ちました。中島ヒコーキの軍需工場が近くにあつたために、空襲がたびたびあり、命からがら逃げまわったり、防空壕に逃げ込んだり、いかに空襲が怖かったのかを聞かさ

